

江南市青少年問題協議会 兼 江南市少年センター運営協議会 会議録

●会議名：江南市青少年問題協議会 兼 江南市少年センター運営協議会

●開催日時：令和8年7月15日（水）午前9時55分から午前11時45分

●場所：江南市役所 3階 第3委員会室

●出席者：16名

役職	氏名	備考
会 長	澤田 和延	江南市長
副会長	中野 裕二	江南市議会厚生文教委員長
委 員	鈴木 健	江南警察署長
	洲崎 和宏	愛知県立江南高等学校長
	大藪 正恭	江南市小中学校長会代表
	西浦 達郎	江南市小中学校長会代表
	安藤 善啓	江南市スポーツ少年団本部長
	栗本 明美	江南市更生保護女性会代表
	大野 順基	江南市少年センター少年補導委員
	鈴木 章幹	江南市少年センター少年補導委員
	神谷 文子	江南市少年センター少年補導委員
	小野 不二子	江南市少年センター少年補導委員
	仙田 桂	江南市人権擁護委員
	大池 泰子	江南市民生児童委員協議会会長
	大野 矩子	ソーシャルワーカー
	百合草 千恵	江南市 PTA 連合会会長

●欠席者：4名

役職	氏名	備考
委 員	高瀬 裕隆	滝高等学校長
	藤井 勝利	江南市子ども会連絡協議会副会長
	中山 栄	江南市少年センター少年補導委員
	島倉 一将	江南青年会議所理事長

●会議次第

1. 会長挨拶
2. 副会長選出について
3. 議題
 - (1) 令和7年度青少年健全育成に関する事業の報告について
 - (2) 令和8年度青少年健全育成に関する事業の計画について
 - (3) 意見交換
4. その他

【会議結果】

1. 会長挨拶

2. 副会長選出について

澤田会長 任期途中でありますが、副会長の牧野委員に異動がありましたので、副会長を新たに選出する必要がありますが、副会長の選出について、いかがいたしましょうか。

安藤委員 会長一任

澤田会長 ただいま、会長一任というご意見がありましたが、ご異議はありますか。

各委員 異議なし。

澤田会長 ありがとうございます。それでは、異議もないようですので、私から、江南市議会厚生文教委員長の中野委員を副会長に指名させていただきます。

3. 議題

（1）令和7年度青少年健全育成に関する事業の報告について

澤田会長 事務局に説明を求める。

事務局 資料に基づき説明する。

藤田課長

承認

（2）令和8年度青少年健全育成に関する事業の計画について

澤田会長 事務局に説明を求める。

事務局 資料に基づき説明する。

藤田課長

承認

(3) 意見交換

澤田会長 委員の皆様は、現在それぞれの立場でご活躍をいただいているところですが、ご意見などがございましたら、この機会をもって情報交換の場としたいと思いますので、よろしくお願いします。

鈴木委員 今の活動の報告等を見て、少年補導委員の方、学校関係、行政と様々な方が青少年の健全育成、非行防止に向けてご協力いただいているということを改めて感じています。

最近、「低年齢少年」と「オンライン上」という2つのキーワードがあります。

低年齢少年については、名古屋市内の例ですが、強盗未遂で、その共犯者は13歳の少年や12歳の少女などが関与していました。

名古屋市内や尾張地方の各地で触法少年を含んだ少年が非行集団化して、傷害やオートバイなどの盗難を敢行するなどの事例の多くがSNSでつながっていたことが分かり、また、その中に不登校状態の子が非常に多いということでした。

オンライン上については、今話題となっている闇バイトです。

栃木県で強盗殺人事件があり、少年4人が逮捕されたことを見て、少年が江南警察署に自分もトクリュウに加担しているのではないかと、出頭してきました。

実際に、犯罪に関与していましたので、必要な措置は取りましたが、それだけ影響も大きいということだと思います。その他にも賭博や児童ポルノ、恐喝強要などがオンライン上でつながり実行している事例も多く、警察としては、早期検挙により厳しく対応することが、犯罪抑止に繋がると思い、対応をしているところです。

いずれにしても、冒頭申し上げたように、警察だけの力ではどうしても足りませんので、引き続き皆様と協力していろいろな少年非行問題に対し取り組んでいきたいと思っています。

洲崎委員 私は、県立学校で320名の生徒を預かる身として、いろいろな見守り活動していただいていることを改めて感謝申し上げます。

今時の高校生について、少し感じたことを話しますと、コロナ禍以後ということもあるのか、年々、少しずつ社会性が未発達な生徒が多く、個人的なことに流されたり、あるいは責任感がなかったり、まだ社会性という面では希薄であると感じています。

例えば、学校をサボってしまうという事例があり、その際、私どもが指導すると、当該生徒が「これは自己責任だからいいでしょう」と

という言い方をしてきたことがありました。

確かに自己責任ではありますが、未成年であり、親や学校等に変な心配を掛けていることは、どうなのかと話したことがあります。

今時情報はたくさんあり、どんどん自分に情報が入ってきて、楽しいことではありますが、それに対して責任をとることができず、また流されながら結局先ほどあった闇バイト等に流されてしまうというところが大変怖く、そういったところを、しっかりと皆様と連携をして子どもたちを見守り、あるいは指導していきたいと思います。

大藪委員 学校現場で感じていることを少し話させていただきます。

今の中学1年生、小学5、6年生の年代は入学式を終え、コロナ禍の影響で全く学校に通えなかった期間が2ヶ月ほどありました。

その後、2年間ほど全員がマスクを着用するという生活を繰り返していたので、表情を読み取る力が欠けていることを強く感じます。

子どもたちが「先生が今、怒っているのかどうか、顔を見て分からない」と言うことがありますので、「今、先生が怒っているんだよ」と口で伝えないと、表情では伝わらない状況があります。

それから、朝食について少し問題視されてきているのは、食パン1枚にジャムというような食べ方をする子どもが割と多いのですが、血糖値が一気に上昇すると、学校に着いた頃にはその血糖値が逆に急激に減少して、食べる前よりも血糖値が落ちている状態となっている可能性があり、授業中の勉強に身が入らず、勉強が分からなくなり、不登校となっていくという、栄養と不登校の関わりということが言われ始めています。

もう1点、栄養とADHDの関わりについて、これもまだ医学的に検証が進んでいる途中ですが、ADHD傾向の子の血中鉄分を調べると、鉄分濃度が低い傾向にあることがだんだん分かってきたそうです。

それが体質によるものなのか、摂取によるものなのかは、まだ分かっていないのですが、今までと違った面での話であり、教育の現場でも話題となってきていますので、こういったことにも注意を払っていききたいと思います。

西浦委員 私は、子どもたちが何か悩みなどを抱えたときに、どこへどのようにSOSを出すのかということに、着目しています。

本日の資料の5ページ以降を見ますと、Eメール、直接相談電話など様々な相談方法を用意しながら、子どもたちの悩みなどを吸い上げ、また、受け付けていることが本当に有効であると思います。

小中学校では、SOS の出し方の教育が今盛んに言われており、どうやって助けを求める、援助希求の力をどう学校生活の中で高めていくのかということが重要となっており、引き続き江南市全体で SOS の出し方の教育も進めていきたいと思っています。

もう 1 つは、生徒の登下校の様子が気になるということで、地域の方からお電話をいただくことが数件ありました。

例えば、ある方の畑の前に、杭と紐があったのですが、足で踏んづけて切ってしまい、それが 1 回ならまだしも数回続いたので、「どういう状況か知りたい」と学校に来られた方がいました。教頭と生徒指導担当が現地に行って状況確認し、最後には該当生徒も分かり、指導もしたという件がありました。

それも決しておしかりを受けるという雰囲気ではなく、「ちょっと心配だわ」という声を聞かせていただき、我々もチームで対応し、子どもに事情を聞き、対策を取ることを継続して行っています。

安藤委員 日本スポーツ少年団が主催するジュニアスポーツフォーラムが東京で年 1 回あり、今年も代表して行ってきました。

そこでいろいろなお話を聞いて勉強するのですが、2 点ほど皆さんに紹介したいお話がありました。

1 点目は、東京大学の研究者である小塩氏がお話しされていた「聞くことの大切さ」でした。

子どもと話をする大人は往々にして、伝えたいという思いが強く、どうしても話をしてしまい、子どもはその話を聞くと、「もう自分は話さなくてもいいんだ」と思ってしまおうと、話していました。

相手の話を聞いている間に大人は、「自分は次に何を話そうか」と考え、その考えている間は、相手の話を聞いていないとのことです。

次に自分が何を話すかを考える前に、まず子どもたちの話を聞き、そして考えて話すことが大事だというお話をしていました。

2 点目は、読売新聞の記者の方のお話ですが、松井秀喜氏にインタビューすると 3 秒間「うーん」と必ず言うそうで、ある時「うーん」となぜ言うのかを本人に聞いたとのことでした。

松井氏は、自分の経験をもとに、「うーん」と考えている間に、「自分がこれから話す言葉によって相手を傷つけないだろうか」と考えていると答えたいらしいです。だから、「うーん」と言っている間は、松井氏は、「誰も傷つけないように」と考えているとのことで、過去に、言葉によって人を傷つけ、それがトラウマになってしまった経験があるとのことでした。また、言葉によって助けられてきた経験があるか

からこそ、自分はこうしているとのことでした。

会長の挨拶からもコミュニケーションの大切さという言葉がありましたが、我々大人はそういったことに気をつけてやっていかなければいけないと感じました。

我々は、子どもたちを相手にしていますので、自分の一言で子どもたちを傷つけていないかを再確認することを、関係者の皆さんや保護者などにフィードバックしていきたいと思います。

栗本委員 私は、罪を犯した人たちに対して、施設訪問、靴下やお菓子のプレゼントなどの心の支えになるような活動や、小学校の下校パトロールを一部の地区でしています。

また、青少年健全育成の中で、「社会を明るくする運動」を行っており、小学校2校に標語を募集させていただきました。

テーマが「非行防止・犯罪防止」ですが、それでも子どもたちは、自分たちで考えた標語を応募し、いただいた標語を選考し、代表作品をラミネートし、それぞれ各地域の掲示板や会員の自宅などに掲げて、啓発活動をしています。

子どもたちにも自分の作品が、目に触れるところにあると励みになるかと思っていますので、子どもたちと関われる活動をたくさんしていきたいと思っています。

私たちにできる活動として、子どもたちと一緒に安心安全な社会づくりを目指していけたらいいと思って、今後も活動しています。

大野委員 少年補導委員の立場として、子どもたちの行動で少し疑問に思っていることを、お伝えします。

月に1回街頭補導で市民文化会館、中央公園、KTX アリーナなどを見回るのですが、少年センターにも報告していますが、中央公園や市民文化会館ではカツアゲなどの非行の話や、喫煙が低年齢化されているらしく、小学生の喫煙という話もご父兄の方から伺っています。

紙タバコより電子タバコの方が吸いやすく、その扱いやすさからか、子どもたちにまで喫煙が身近になっているのが実情らしいです。

大人がタバコを購入し、それを大人にせがんで子どもがもらっていることがあるらしく、地域の目とか当然学校もですが、こういったことも頭に入れ、子どもたちを見守っていただけたらと思いますので、この場をお借りして報告します。

安藤委員 大人というのは、保護者でしょうか。

大野委員 聞いているのは、保護者ではなく、子どもたちが懐いている大人が中央公園でもいるらしいです。

私たちが補導に行くと、結構な頻度でいたりするのですが、結局、現場を見ているわけではなく、子どもたちとその大人が遊んでいるのは見かけるのですが、遊んでいるだけです。注意するわけにもいかず、たまに大人に「何かあったらお願いしますね」という声掛けはするのですが、私たちにできるのはそこまでとなります。

あと、聞いた話では、家庭でも高校生の兄弟が小学生に「お前も吸ってみろ」といった感じで喫煙し、それが常習化されているケースがあるということも、報告を受けたことがあります。

鈴木委員 非行に手を出す子どもは、夜に外出することが多いと感じます。

今の時代、不審者が非常に多くなっており、親が寝てしまうと、子どもの行動が全く分からず、スマホの位置情報で把握できると思いますが、この情報社会、本当に時代が変わってきたと感じており、犯罪も変わってきたという事を私自身痛感しておりますので、これからもいろいろな講習を受け、勉強していく必要があると実感しています。

神谷委員 私は、見守りのボランティアを二十数年しており、毎朝登校のときに、学校の門の前で挨拶をしているのですが、なかなか挨拶する子どもが少なくなっているように感じます。

先日も挨拶運動があり、その際は、素晴らしい声で挨拶するのですが、それが過ぎてしまうと、挨拶をする子は数人となってしまいます。

小野委員 先ほどの委員からもありました、挨拶運動ですが、中学校の校長先生がいらっしゃるのでお尋ねしたいのですが、中学校の生徒が小学校に挨拶運動に自転車で行かれると思いますが、小学校で挨拶運動をしてから中学校に向かうと、遅刻しないのかと心配なのですが、状況をお伺いしてよろしいでしょうか。

西浦委員 遅刻に関しては、発生しておりません。

挨拶運動は、朝の交通量の多い時間帯に生徒の移動があるため、複数の教員を担当として配置した上で行っています。

また、事前にヘルメットの着用や、保険加入の確認、保護者への書面での同意を得たうえで行っています。

仙田委員 今年度は、江南市で地域人権啓発活動活性化事業を行っています。
4 月からその活動の一環である人権の花運動として、前年度に取り組まれた犬山市が育てたヒマワリの種を江南市が引き継ぎ、江南市の小学校児童が育て、そのヒマワリの種を採取し、来年度に岩倉市に引き継ぎ、協力して育てる体験を通じて、思いやりや命の大切さなどの人権尊重の心を育む活動をしています。
中学校では、講師を呼んでの講演会を予定しており、また一般の方への人権に関する講演会も予定しています。
小学校の児童にボッチャを体験してもらい、また、障害を持っている方のお話を聞いたりして、子どもたちが障害や障害のある人に対しての理解を深めるというような活動もしています。
このような活動が今年度はありますので、よろしくお願いします。

大池委員 民生児童委員として、地域の身近な相談相手としての厚生労働大臣から委嘱を受け、地域で活動しています。
その相談活動において、結論は私達では出せませんが、行政や特に高齢者の問題が多いですので、地域包括支援センター、そして社会福祉協議会にその相談をつなげさせていただいています。
学校も、1 年に 1 度、児童委員会で校長先生や教頭先生、生徒指導の先生たちと情報交流ができており、その結果を主任児童員という学校に特化した委員に引き継いで、学校とつながっていければと思っていますので、よろしくお願いします。

大野委員 私は、病院の中に配属のソーシャルワーカーで、医療と福祉の面から、社会保障制度を絡めながら患者さんなどの問題にアプローチをして対応しています。
私はどちらかというところ、子どもや妊婦さんの対応を専門としており、印象として感じることは、10 代の若い方のオーバードーズや自殺未遂で救急搬送される場合も、江南市だけではないですが見受けられるので、件数があるためこぼれ落ちないように、地域や専門機関につなぐことを、これからもしていければと思っています。
あと、一保護者として、感じる点に関してお話できればと思います。
小学生の間でも、オンラインゲームをすることが流行っていることをよく聞きます。オンライン上でいろいろな人が入って 1 つのゲームをし、そこで友達になるとメッセージのやりとりができたりすることがあるので、知らない人と連絡を取れる関係性ができ、それが多分犯罪や非行につながっていくのではないかとすごく感じます。

親も気をつけて、タブレットやスマートフォンにフィルターをかけたり、気にかけていたりしていかないと、知らないうちに、いろいろな検索をしていたりとかということがありますので、啓発に関してはそういったオンライン上のことやネット関係のことも、今の時代結構重点的にしていかなければいけないと、親目線として感じます。

百合草委員　私は、小学6年、4年、1年の3人の子育てをしています。地域の方々からのご意見は比較的前向きなご意見が多かったので、今日、いろいろな意見を聞いて、すごく驚きを感じました。

不登校の子が大分多くなっている傾向も、友人を通じて話を聞かれますが、不登校の理由は基準が本当に低く、「少し行きたくないなと思うから行かないだけ」だとよく聞きます。

行かない理由がゲームだったり、遊びに行ったりといろいろあるのですが、大分基準が低くなってきており、親としても行かないことが悪ではないので、「心を壊すぐらいなら行かなくて家にいていいよ」という気持ちは多分あると思います。

これまでの話にあったように、不登校により社会とのつながりが希薄となり、学校外でのつながりを求めた結果、犯罪につながっていくということはパターンとしてすごく容易に考えられると思います。

私も、子どもたちに話すときは、一気に話してしまい、先ほどの「聞くことの大切さ」の話を受け、正直耳が痛かったのですが、親の心に余裕があることもとても大事であると思いました。

中野副会長　市議会は、中学生との意見交換会を令和3年度から継続して行っており、今年度も7月28日に行うのですが、意見交換会に参加する生徒は真面目で積極的な生徒が多いため、喫煙、闇バイトや薬物乱用が低年齢化してきていることに非常にギャップを感じ、また、ショックを受けました。

共働きが当たり前の時代で、仕事も家事も子育てもすると、「話を聞く」ということが忙しく余裕がないため、意外とできそうでできないと思います。

大人がどう子どもに関わっていくかが、非常に重要だと感じますので、子どもが相談できる場所や大人が子どもに対する関わり方を気軽に相談できる体制や大人のケアもしていかなないと、子どもの犯罪や非行も減少していかないと感じました。

私たち大人一人一人ができることは限られており、大人が子どもとつながりを持ち、それぞれの目で子どもたちを見守ることによって、

1人でも救える子どもが増えていければいいかと思います。

子どもの頃にどれだけ大人と関わるのかというのも重要であると考えており、私も小学校から高校まで野球をやっており、いろいろな大人に厳しい指導を受け、指導された言葉も頭の中に残っています。

また、平日、土日といつも野球をやっており、悪いことをする時間もなく、家に帰れば疲れ切っている状態でした。そういった点から考えると、非行につながる要因として、今の子どもたちにはゆとりがあり、時間ができたとも考えられます。

1人でも多くの大人が、子どもに関わりを持つ社会づくりを、私も市議会議員として取り組まなければいけないと思いました。

澤田会長 私が気になったこととして「不登校」というキーワードが何人かの委員から出ました。

今の考え方として「不登校＝悪」ではない認識をしっかりと持たなければいけないのですが、この不登校や本日の全体の話について、事務局よりお願いします。

事務局 「不登校、SNS、つながり」の3点について、お話をさせていただきます。
教育長

まず1点目「不登校」です。

現在の江南市の小中学校における不登校児童生徒の現状として、35人学級の1つの教室に置き換えると、小学校は約1人、中学校は約3人の不登校傾向となっており、江南市の不登校は大きな問題であり、いかにその子どもたちを支えていくかを考えなければいけません。

本日、喫煙や少年犯罪の低年齢化というお話もありましたが、実はこの不登校の傾向も低年齢化という言葉が当てはまります。

高学年になり不登校になる児童もいますが、1年生の頃から学校に足が向かず、教室の環境が自分に合っていないと感じる児童が多くなっているのが現状で、この原因は、やはり子どもの良さを引き出しきれていないことであると認識しています。

子どもたちは、保育園や幼稚園、あるいは家庭の中からいろいろなことを学び成長してきており、その知識や経験、体験を十分に生かしきれていないと感じます。

それは先ほどの話にもあった、「話を聞く」ことができていないこともあるかもしれません。子どもたちが自信を持って、言いたいことを言ってやってみる。そういう機会づくりをもっと進めていく必要性を感じています。

あわせて、保護者支援も非常に重要であり、保護者の価値観も多様化している中、保護者にも「一緒にやってみましょう」という働きかけを教育委員会や学校が行っていくことが重要であると感じています。

江南市では教室に入れない子に対し、学校の雰囲気을大事にするため、校内教育支援センターを設置しており、また、愛知県教育支援センターでは、メタバースを活用した不登校生徒への教育支援「ONE STEP みらい」が開始されました。

普通のオンラインゲームとは違って、メタバース上には担当職員がいて、その方と Web カメラ上で話ができたりし、子どもたちの声を聞く場を作ろうという取り組みが始まっています。

いずれにしても、不登校児童生徒への対応は、学校だけでなく、行政の環境づくり、さらに皆さん方のお力添えをいただきながら進めていきたいと思っています。

2 点目が「SNS」です。

「こども家庭庁が開催している青少年インターネット環境整備法の在り方等に関する検討ワーキンググループが、中間整理報告書をまとめる」との記事が新聞に掲載されていました。

海外でも、未成年の SNS 使用を禁止している国などがありますが、SNS の活用方法をどうしていくかが問われています。

SNS や生成 AI など、その便利さの裏にある危険性をしっかりと伝え、情報がたくさんある中で、その情報をどう活かしていくかという情報活用能力という言葉が教育のキーワードとなってきます。

ある中学校のアンケート結果では、中学 3 年生の 4 分の 1 の生徒は毎日生成 AI と何らかの形で関わっているとのことでした。

子どもたちも学校から出る課題のヒントを生成 AI に求めたり、作品づくりにも生成 AI の力を借りたりと、もちろんそれが著作権に関わる盗作になってはいけないのですが、そのような活用が行われていますので、情報活用に関わる力をしっかりと身につけさせていくことは、非常に大事なことであると思っています。

最後、3 点目が「つながり」です。

副会長も話されていましたが、大人がどう子どもとつながっていくかですが、これも先日ですが、江南市内の町内会の盆踊りが復活するという新聞記事がありました。

地域の人たちが子どもたちに、太鼓のたたき方を教える場をつくるということは素敵なことであり、そういったつながりを、学校も 1 つのプラットフォームになり関わっていけたら、さらに教育委員会もそ

のきっかけづくりに一躍を担えたらと思っています。

やはり子どもたちは、居場所を求めていると感じますので、子どもたちの居場所をどう作り、それをどうプラスにつなげていくのかを、しっかり考えていきたいです。

休日の部活動の地域展開もその一例だと思いますが、子どもたちのいろいろな場所・場面づくりを私たちはこれからもしていきますので、引き続きお力添えいただきますようお願いします。

澤田会長 私も保護司をしており、また、かつてはスポーツ少年団の活動もしていました。随分子どもたちと家庭の関係が変わってきていると感じており、本日お集まりの委員の皆さんも様々な形で子どもたちと関わっていただいていると思いますが、副会長や事務局からもありましたが、行政としてもつながりを大切に、意識して取り組まなければいけないと感じました。

それでは、これで議題３（３）意見交換について、終了します。

4. その他

事務局

藤田課長 連絡事項は特にありません。